



てんけんじゃくい 天 険 若 夷

2025年11月10日

発行責任者 菅野 拓哉

JR貨物労組九州地本青年部

日本貨物鉄道株式会社
代表取締役社長執行役員 大飼 新 殿
九州支社長 松尾 正博 殿

2025年11月7日

日本貨物鉄道労働組合
九州地本青年部
青年部長 菅野 拓哉

2025年度年末手当満額回答を求める要請文

JR貨物労組は10月23日に「2025年度年末手当」の申し入れを行ない、「基準内賃金×2.9カ月」を要求し、本日まで本部一本社間において交渉を重ねてきた。

しかし、第2回交渉において会社は「期末手当は業績給」という例年通りの考え方を示してきた。今春闘において定期昇給と2,000円のベースアップが実施されたが、昨年度の物価上昇分には全く追いついておらず、青年部員は日々の生活費を切り詰めながら生活を送っている。さらに、今年度下期に入ってから物価は高騰し続け、青年部員は貯金すらままに出来ない状況の中、期末手当を切崩して生活費の補填に充てる生活を続けている。基本給が低い青年部員にとって、期末手当は生活給そのものであり、青年部員の安定した生活を守るためにも会社は責任を持って応えるべきである。

休日に心身のリフレッシュをすることは労働力の再生産に必要不可欠であるが、一向に改善の兆しが見えない要員不足の中、常態化している超過勤務や3徹以上の連続勤務、休日出勤に追われ、私たち青年部員は公私の切り替える時間の少ないまま再度仕事に向かうことを余儀なくされている。職場の最前線で奮闘する青年部員は、余裕のある日常生活が送れず、現状への不満や将来への不安を募らせている。こうした不満や不安に耐えかねて、直近では駅職場を中心に若年退職者が続出している。

こうした状況下でも、職場の青年部員は互いに励まし合い、助け合いながら職務を全うし、8月の脱線事故対応や自然災害による大幅遅延対応があったにもかかわらず、安全・安定輸送の確保に努め、結果収入も輸送量も昨年度を上回っている。会社は「半期の業績・足元の収入動向・社員の頑張り」で判断するとしており、直近の状況やこの間の青年部員の努力・奮闘の結果が収入に現れている事を見れば、十分に支払い能力はあるはずだ。「鉄道事業は計画未達であり、楽観視できる状況ではない」といった理由での手当抑制は断じて許されない。

物流の2024年問題を経て、JR貨物が果たすべき社会的使命はより一層高まっている。青年部員のモチベーション維持や離職防止、魅力ある会社とするためにも、会社は真摯に青年部員と向き合い、回答指定日には私たちの要請に対して満額回答をするべきである。

記

1. 基準内賃金×2.9カ月の要求に満額で回答されたい。
2. 新規採用を継続実施されたい。

以上



九州地青は11月7日（金）16時10分より九州支社にて2025年度年末手当満額獲得におけた「支社要請行動」を実施しました！

冒頭、菅野青年部長が要請文を読み上げ、中山総務部長に手渡しました。要請内容は右記の通りです。

2025年度年末手当 支社要請行動を実施！ 九州地青

盆休以降、大幅遅延が発生しても列車を運休せず、遅らせてでも出そうとしている。荷主の要望なのは理解するが、その分職場の青年部員は超勤や休日出勤等の苦しい対応を強いられている！
こうした頑張りには会社は満額で応えるべきだ！！

安全最優先で遅延対応にのぞまなければならないが、どの職場でも要員が不足している状況で安全が担保できるのか？助勤で対応しているが、10月には福岡で多くの離職者が出た。これ以上の離職を防ぐ意味で、今年末手当の結果は重要な意味を持つ！

門司の青年部員から「野菜が買えない」という声が出た。犬飼社長はぼろで10月号で“健康経営”を打ち出したが、青年部員は栄養のある食事ができないくらい生活に困っている！期末手当は生活給であることを改めて主張する！！

休憩中にほっともとの“のり弁（460円）”を食べていた時、ある青年部員から「金持ちですね」と言われた…。北タではカップ麺におにぎり1個で食事を済ます青年部員が多い。それだけ青年部員は日々の生活費を切り詰めている！

離職防止策で実施している“メンター制度”だが、メンターは負担を感じているし、メンティーも業務関係の悩みを相談できず、意味を感じていない。このままプロフェッショナル職で実施しても離職防止策として機能しない！

職場の最前線で奮闘する青年部員の生活苦とこの間の頑張りについて伝えた。この実態をまずは支社長に伝え、本社まで必ず届くよう強く要請する！
離職防止と社員間コミュニケーションの場として、支社主催の野球大会や従来機の社員向け撮影会を開催するのはどうか？